

abc the22nd/EQIDEN 2024

競技規則

早押しクイズ正誤判定基準

全体ルール

- ・ 問題が読み切られてからの待ち時間は3カウント。カウントののちにブザーが鳴らされた時点で「スルー」とし、その問題に対して解答することはできない。待ち時間一杯の直前でボタンが押されても、ブザーでキャンセルされてしまった場合、スルー扱いとする。
- ・ ボタンが押されてからのシンキングタイムは3カウント。カウントののちにタイムアップのブザーが鳴らされるまでの間にクイズに解答すること。無解答のままブザーが鳴ったり、発した解答がブザーと重なったりした場合、不正解とする。
- ・ 解答が聞こえなかった場合、正誤判定者は「聞こえませんでした」と言って解答者の再解答を求める。この場合、解答者は最初に言った答えをそのまま答えなくてはならない。
- ・ 解答が「正解に限りなく近いが、そのままでは正解にならない」と正誤判定者が判断した場合、正誤判定者は「もう1度(もしくはもう1回)」と言って、解答者の再解答を求める。(この時、解答者は最初に言った答えをそのまま言わず、別の答えを答える)。この解答が用意している正解と異なる場合は不正解とする。
- ・ また、日本人名の苗字のみを答えた場合など、「(それだけでは正解と判定できないような)正解のはじめの一部を解答した」と正誤判定者が判断した場合は、シンキングタイムのカウントをそのまま続行する。このとき、解答者は続けて答えを発声できる。カウント終了までに解答の継続がなかった場合、「もう1度(もしくはもう1回)」の対象となる。

人名について

- ・ 人名に関しての敬称・肩書(「○○さん」「○○選手」など)の有無は、正誤判定には関係ない。しかし、明らかに間違った敬称・肩書をつけた場合は誤答扱いにする。
- ・ 人名は原則として、芸名・ペンネーム・登録名など最も一般的に知られている名前、及びそれに準ずる知名度のもののみを正解とし、本名や別号など「知名度が低い」と正誤判定者が判断した解答は「もう1度(もしくはもう1回)」の対象とする。
- ・ 東洋人名(日本・韓国・中国・台湾など、主に氏名表記に漢字が用いられる国)は、フルネームでの解答に限り正解とする。ただし、東洋人名でも、通称が固有名詞化した場合や、四股名はこの限りではない。
- ・ 西洋人名は、原則ファミリーネームのみで正解とする。ただし、明らかにフルネームを要求される問題の場合は例外とする。

- ・ 複合姓はファミリーネーム同様、区別の必要性がある場合のみ求め、原則一般的な呼称で正解とする。
- ・ 以上の人名に関するルールは、実在しないキャラクター等にも適用する。

複数解答について

- ・ 複数のものから一つだけを答える問題の場合、問題文のままの順序で全てを答えた場合は正解とするが、それ以外の場合、全てを解答するのは不正解とする。
- ・ 都道府県名と都市名の両方を答えた場合、原則都市名の方を答えたものとみなす。

文章での解答について

- ・ 歌詞や文章の一部を問う問題で、問われているもの以上を解答した場合は、たとえ歌詞・文章通りでも「もう1度(もしくはもう1回)」の対象とすることがある。その場合、解答者はより絞った解答をしなくてはならない。
- ・ ただし、ことわざや慣用句など、全体で1つのイディオムとして認知されている言葉はこの限りではない。
- ・ ことわざや慣用句のすべてを答えた際、問われているものは正解だが、問題文と一部が異なっていた場合は「もう1度(もしくはもう1回)」の対象とすることがある。その場合、解答者は問われているもののみか、問題文通りのことわざや慣用句で答え直さなくてはならない。

出題や正誤判定の内容に対する疑義

疑義がある場合の対応

- ・ 出題や正誤判定の内容に対する疑義がある場合、選手は、以下の①②のうちの早い方までに意思表示をすることにより、審議を求めることができる。
 - ① 当該の問題から2問先の問題が読まれる
 - ② 次のラウンドのボタンチェックが開始される(EQIDEN第二予選の場合は、部屋からの退出の指示がなされる)
- ・ 本節における「選手」には、当該セットに参加しているすべての選手および、EQIDENにおいて当該問題の出題時点で解答権を持たないチームメンバー(正選手)を含む。
- ・ ①の場合、選手は問題と問題の間において意思表示を行うこととする。
- ・ 審議を求める際は、そのことが明確にわかるように口頭で意思表示する。その後、意思表示の内容に基づき、大会長・問題チーフをはじめとするスタッフ間で審議を行う。
- ・ この際、選手は疑義についての明確な根拠を呈示せずとも審議を受けることができる。少しでも疑わしいと感じた場合には、積極的に意思表示を行うことを推奨する。

- ・ 審議を求める意思表示は、当該試合に参加している選手以外の人も行うことができる。この場合も、原則として上記と同様の期限までの意思表示を受け付ける。①の期限までに発声により意思表示を行う場合は、問題と問題の間において行うこととする。
- ・ 審議を求める意思表示を行うことができる回数には制限を設けない。ただし、意思表示の権利が濫用され、大会の進行や試合展開に悪影響を与えていると認められた場合には、スタッフ間の協議に基づき、回数制限の適用など何らかの処置を取ることがある。
- ・ abcのSemi Final(タイムレース)においては、試合時間中の意思表示は受け付けず、5分間のセット終了後に審議を求める意思表示を受け付ける。
- ・ その他、出題や正誤判定に関わらない申し立てがある場合は、問題と問題の間に申し出ることが出来る。この申し立ては、出題や正誤判定に対する意思表示と異なり、原則として期限を設けない。
例：体調不良、得点表示が正しいかどうかの確認、アナウンスが正しいかどうかの確認 など